

児と思われるもの一八、小学校児童と思われるもの二一でいずれも母親または父親または家人が同伴している。結果について述べると

(1) 所有化の型では山の手よりも工場街、工場街よりも農村地帯が親中心に傾く。

(2) 親子関係と禁止の数では三地域の差が見られる。すなわちども

も中心では山の手および工場街では禁止のあるものないものがほぼ同数だったが、農村地帯では禁止のあるものがずっと多い。親中心

では山の手地域では禁止のあるもの無いものはほぼ同数であったが、工場街および農村地帯では禁止のあるものがずっと多い。

(3) 禁止の理由および玩具要求数は地域差は見られない。

(4) 親子関係と子どもの年令では幼稚園以下では三地域とも親中心に傾いたが、幼稚園の場合は工場街および農村地帯ではかなり親中

心に傾き小学校においては山の手および工場街では子ども中心が多くなっているのに農村地帯では依然として親中心に傾いている。

(5) 同伴者の場合は父親同伴の場合にだけ差が見られ山の手から工場街、工場街から農村地帯へと子ども中心が減っている。

(6) 満足状態では工場街および農村地帯では一定の傾向が認められず山の手に比べて、子どもが玩具を手にした時の表現からはそれを捉えにくいということが言えるように思われる。

「言語経験を豊かにするための 絵本による指導法」について

(その1) 幼稚園における絵本使用の状況

埼玉大学 野間郁夫

国立国語研究所 村石昭三

東京魚籃幼稚園 山田巖雄

東京学芸大学付属幼稚園 高杉自子

神戸聖公幼稚園 笠井謙守

幼児向絵本に関する調査

マス・コミ時代の、しかも、成熟期年令低下の呼ばれる現今、絵本の教育的価値と、積極的な言語経験の育成すなわち文字に気づいた子どもの指導法の一端を、詩的なカルタつくりの具体例をもとにして考慮した。先ず快適な環境設定であるが、教師の温い態度と、落ちついた雰囲気と、常に新鮮味のある部屋や設備すなわち、喜んで絵本をみたくなる場の構成などの環境を整備設定すること。これにより、みんなで絵本をみようとする興味と意欲が盛んになり、そこでの言語指導も、幼児のこよなき喜びの場となるのである。

したがってその理想的な環境整備と共にそれが指導計画においても、教師は常に備え付けの絵本に精通し、絵本の指導も教育計画の中に系統的に識り込み、有効適切な計画をたてることが大切である。次に、絵本による指導法としては、プリント一九八頁にあげてみたが、これらの言語指導のみのりとして、十二月から一月にかけて年長組を対象とした詩的なカルタ遊びの具体例を申し述べる。(プリント一九七頁経験の箇条書参照)この遊びによる教育的効果は、プリント一九八頁の六項に大別出来るのである。